

読書活動事例集

事例集目次

【生まれる前からの支援としての取組事例】

プレママ読み聞かせ講座「おなかのあかちゃんと絵本を楽しもう」 _____ 3
～千代田区 四番町図書館での取組～

プレママとプレパパのためのおはなし会 _____ 4
～足立区 両親学級での取組～

プレママ、ベビママ読み聞かせ講座 _____ 4
～町田市 児童館（子どもセンターばあん）の取組～

【乳幼児期の取組事例】

親子で一緒に楽しむおはなし会「うりぼうのへや」 _____ 5
～都立多摩図書館～

乳幼児期から本に親しむ環境づくりを推進します _____ 6
～新宿区 こども図書館～

【小・中学生の取組事例】

こんな本がおもしろかったよ！ _____ 7
～「私が読んだこの本」と「読書感想文・感想画コンクール」～ 八王子市図書館)

学校中を図書館に _____ 8
～荒川区立第一日暮里小学校の読書活動の取組～

感動や他の生徒にも薦めたい気持ち「私が出会った一冊の本」 _____ 9
～中野区立中野中学校の取組～

【高校生等の取組事例】

推薦図書 120 選	10
～東京都立西高等学校の読書活動の推進～	
読書習慣を日常に	11
～東京都立武蔵村山高等学校の昼読書～	
喜びを持って自ら学ぶ力を育てる場	12
～聖心女子学院 読書活動の取組～	

【特別な支援を必要とする児童・生徒の取組事例】

どの子供にも読書の喜びを感じてほしい！	13
～東京都立鹿本学園～	

【発達障害の児童・生徒の読書活動の支援としての指導事例】

長文の意味理解が苦手な児童の指導	15
------------------	----

【学校支援ボランティアの資質向上のための自治体で取組例】

<小平市 自治体・学校の取組>	17
<大田区 図書館の取組>	17
<世田谷区 図書館の取組>	17

【学校図書館リニューアル事例】

学校支援ボランティアによる図書館リニューアル事例	19
～江戸川区立南葛西第二中学校の取組～	

【生まれる前からの支援としての取組事例】

乳幼児期からの読み聞かせについて様々な取組がなされている中で、子供が生まれる前の段階から取組が行われている自治体もあります。

お腹にいる赤ちゃんに話しかけ、読み聞かせを行うことで親子のきずなを深め、読み聞かせの大切さをこれから保護者となる方々に伝える取組の事例を紹介します。

プレママ読み聞かせ講座「おなかのあかちゃんと絵本を楽しもう」 ～千代田区 四番町図書館での取組～

千代田区では平成 25 年 10 月 19 日（土）四番町図書館ラウンジセミナーにて、プレママ読み聞かせ講座を開催しました。

四番町図書館は、区立図書館における児童サービスの拠点として、毎週金曜日と月に一回日曜日に、乳幼児向けのおはなし会を開催し、おはなしと手あそびを行っています。平成 24 年度から、一般の読み聞かせ講座を実施していますが、「プレママ（妊婦さん）のための読み聞かせ講座を開催して欲しい」との要望が多かったため、今回の講座を企画しました。（定員：20 名（申込順）、対象：妊婦さんとその家族、講師：四番町図書館長）

区の広報紙のほか、区立図書館ホームページや区立図書館をはじめとした区立施設でのちらしの設置やポスターの掲示等により広報を行いました。

当日の参加者は夫婦で参加した 3 組と家族 2 名。読み聞かせの目的、赤ちゃんがお腹にいるときから声を聴かせてあげることの大切さや、どんな本を読んだらいいか、また優しい雰囲気でお腹にいる赤ちゃんに読み聞かせを行うことで家族の信頼関係の基礎作りやコミュニケーションとなることなど、読み聞かせに対する関心が深まるようなお話をし、読み聞かせの実演も行いました。

参加者からは、講座をきっかけに子供との関係性や、父親としての役割を考えたという声があり、また当日は、各自の思い出の本について話す機会にもなりました。

今回の講座を通して、参加者に絵本を介して子供との関係を持つことの意味を再確認してもらうことができました。参加者は引き続き、生まれた赤ちゃんとおはなし会に参加する、また四番町図書館の一般向けの読み聞かせ講座に参加するなど活動の幅を広げています。



プレママとプレパパのためのおはなし会 ～足立区 両親学級での取組～

足立区では、これから親となるプレママ・プレパパに対して、保健総合センターで行っている「両親学級」で約 20 分時間、図書館職員が本の紹介や読み語り※の実演を行っています。

絵本の楽しさを伝えたり、育児に役立つ本を紹介することと併せて、読み語りをしたことのない方にも方法が分かるよう、和やかな雰囲気の中で、実演も行っています。

この取組は平成 21 年度から開始し、21 年度は 4 回開催し 26 人だった参加人数は、23 年度から全保健総合センターで実施していて、24 年度は各保健総合センターで 1 回ずつ、計 5 回開催し 125 人となり、参加人数も増えています。

絵本を選ぶポイント(美しい言葉・繰り返しのリズムのある言葉・美しい絵・遊びながら一緒に楽しめるもの)とおすすめ絵本を 10 冊程度紹介し、絵本に触れる機会を提供しています。

今後は、全保健総合センターで継続して実施することを定着させ、参加者の読み語りに対する興味関心を高め、保健総合センターで行う 3 か月～4 か月健診での絵本配布と読み語り、図書館で毎週行っている赤ちゃんおはなし会につなげていきたいと考えています。

※足立区では、絵本を通じた触れ合いや心の交流を重視することから、「読み聞かせ」ではなく「読み語り」と表現しています。

プレママ、ベビママ読み聞かせ講座 ～町田市 児童館（子どもセンターばあん）の取組～

児童館（子どもセンターばあん）は 0 歳から 18 歳までの子供とその保護者を対象とした施設で、子供たちの遊び、成長、発達の拠点とした施設です。

ばあんで月 2 回読み聞かせの取組を行っていましたが、乳幼児でも参加してよいかという問合せが増えてきていました。

そこで、2014 年 2 月に、プレママ・ベビママのための講座の内の 1 回を、読み聞かせをすることで、子供とのきずなを深めていくという趣旨で「はじめてのおはなし」という講座を実施しました。プレママとは妊娠中のお母さん、ベビママとは赤ちゃんのいるお母さんです。

内容は講師が読み聞かせの重要性・大切さ・役割を話し、読み聞かせを通じて親子のきずなを深めることの大切さを伝えるとともに、実演も行いました。子供が生まれる前から声をかけ、読み聞かせの練習だというような気持ちの中で、ゆったりした気持ちで子供に話しかけ、絵本を読んでもらいたいという気持ちで講座を行いました。

この時には申込制で参加者 25 名（プレママは 2 名）。広報は市の広報・児童館の行事案内・市のホームページで実施しました。

【乳幼児期の取組事例】

親子で一緒に楽しむおはなし会「うりぼうのへや」 ～都立多摩図書館～

都立多摩図書館では、登録制の乳幼児おはなし会を実施しています。1歳から2歳までの子供と保護者20組が1年間、同じメンバーで絵本の読み聞かせやわらべうたを楽しみます。一人一人の子供の成長や変化を把握することを目的として、平成23年度から行っています。

多くの子供が1歳から加入し、2年間続けます。毎回、絵本を3冊読み、合間にわらべうたで思いきり遊びます。始まってしばらくは、絵本や読み手に興味を示しても、走ったり、体を動かし声を出すこと自体を楽しんでいる子供がほとんどですが、回を重ねるうちに、少しずつ変化が見られるようになります。

おはなし会の間、ずっと会場内を走り回っていた男の子がいました。開始から半年程経ったときのことで、『もこもこもこ』という絵本を読むと、その子は動きをぴたっと止め、絵本をじっと見始めました。そして絵本の前に寄ってきて、読み手の「ふうっ」「ぎらぎら」という言葉をまねして言ったのです。それからは走り回りながらも、好きな絵本の読み聞かせになると、前に出てきてじっと聞くようになりました。

こんなエピソードもあります。『きんぎょがにげた』という絵本は、絵の中に隠れている金魚を見つけて楽しむ絵本ですが、1歳児だけの時には、みんな絵本をじっと見ているだけです。ところが、年上の子供が金魚を指すのを見ると、1歳児も絵本を指すようになります。最初は年上の子供たちの真似ですが、そこから「探して楽しむ」ことを覚えていくのです。子供は互いに影響しつつ成長していく、ということを改めて感じます。また、グループ全体が成長していけるのも、同じメンバーで参加しているという安心感があるからかもしれません。

回を重ねるうちに保護者の方々の表情もとてもやわらかくなっていくように思います。ある保護者の方が、おはなし会に参加してわらべうたを知ったことで、病院の待ち時間や長距離移動の車の中で、わらべうたで遊びながら自然に子供と楽しい時間を過ごせるようになったと話してくれました。

私たちは、子供たちが言葉の世界を楽しむには、まず、保護者の方が絵本やわらべうたの力を信じて楽しむことが大切であることを、これからも伝えていきたいと思っています。



乳幼児期から本に親しむ環境づくりを推進します ～新宿区 こども図書館～

◎「おはなし会」を毎日実施しています

新宿区立こども図書館では、毎日午後3時から大きい子向けの、また、毎週日曜日の午前11時30分から小さい子向けのおはなし会をそれぞれ実施しています。乳幼児期の絵本による読み聞かせ、あるいは、本との出会いは、心の成長に大きな効果があると言われています。毎日行うことにより、来館する乳幼児に対してこれらの読み聞かせ等の機会を多くしています。



また、新宿区立保健センター（4か所）が行う乳幼児健診時において、地域図書館とその地域ボランティアによる乳幼児への読み聞かせを行うとともに、保護者へ「読み聞かせの意義」を伝えています。このように、新宿区では、乳幼児期から本に親しむ環境づくりをさらに拡充するため、読書に対する保護者の関心を高めるための取組を推進しています。



◎「たたみ」の上でお読みください！

こども図書館・絵本コーナーに「四畳半のたたみ」を設置して、子供たちがリラックスして読書できるようにしています。また、保護者が乳幼児を座らせ、あるいは、抱っこしながら読み聞かせをしています。

【小・中学生の取組事例】

こんな本がおもしろかったよ！ ～ 「私が読んだこの本」と「読書感想文・感想画コンクール」～ (八王子市図書館)



八王子市中央図書館には、1階の図書館フロアに足を踏み入れてすぐ、子供たちが読んで楽しかった本を紹介する「私の読んだこの本」のコーナーがあります。A5サイズの紙に思い思いに本の紹介や感想を書いた作品を常時募集し、毎月貼り替えています。中には色鉛筆やペンを使ってカラフルに描いてくれたり、感想をびっしり書いてくれた力作もあり、子供たちが読書を通して楽しみ、それを消化して自由に発表する場となっています。

また八王子市図書館では、ロータリークラブとの共催により、小学生、中学生向けに読書感想文コンクールと感想画コンクールを行っています。昨年で9回目となった感想画コンクールには792点、2回目の感想文コンクールには1704点の応募があり、多くの子供たちが、読んだ本の感想を形にしてくれました。

「私の読んだこの本」や「読書感想文・感想画コンクール」の作品からは、子供たちが読書を通して得た「楽しい」「紹介したい」という前向きな気持ちが伺えます。



学校中を図書館に ～荒川区立第一日暮里小学校の読書活動の取組～

第一日暮里小学校では、「子どもたちに本の恵みを降り注ごう」をコンセプトに、読書環境を整えています。

読み物の部屋「ブックランド」には、一学級全員が座れるテーブル席と、座って話が聞ける読み聞かせスペースがあります。保護者のブックボランティアの協力を得て、季節に応じた装飾や本の内容が分かるディスプレイなど、子供たちが来館しやすい雰囲気をつくり出しています。

調べる学習の部屋「メディアランド」は、隣のパソコンルームとあわせて「学習・情報センター」として位置付け、調べる学習を中心とした学習を展開しています。また、本校卒業生である高村光太郎コーナーや新聞の切り抜き、パンフレットを集めた手作りのファイル資料コーナーを設置し、学習の範囲が広がるようにしています。

子供たちが読書体験で得たことを進んで伝え表現する取組として、ブックランド前には「ハートの木」、メディアランド入口には「ちえの木」があります。子供たちは読んだ物語の内容を書いたカードを「ハートの木」に、調べて分かったことを書いた実を「ちえの木」に貼っていきます。また、月に1回、子供たちがおすすめの本を紹介カードに書き、廊下にあるホルダーに掲示しています。

さらに、各教科の学習指導において図書館資料の活用を図り、読んで書く力を重視し、伝え合う言語活動を充実させることで、自らの考えを深め、確かで豊かに表現できる子供の育成を図っています。

こうした取組により、低学年は箇条書きでまとめる力や段落を意識して書く力が、中高学年は資料から必要な情報を取り出し、まとめる力が育ってきました。



ブックランド



ちえの木



メディアランド

感動や他の生徒にも薦めたい気持ち「私が出会った一冊の本」 ～中野区立中野中学校の取組～

中野中学校では生徒が自主的・主体的な行動が取れるよう、ノーチャイムの試みなどを行っています。図書館は学校の中心部にあり、2階に上がると、吹き抜けの明るいガラス張りの図書館が目に飛び込んできます。校長室にも文庫本の書架（校長室文庫）があり、生徒や教員が自由に入り、借りられるようにしています。

図書館活動は、年度当初に図書館担当職員と学校図書館指導員が打合せを行い、年間の活動計画を作成し、それに基づいて指導を進めています。



毎朝、朝読書を行っており、毎月「図書館だより」を発行して新着図書の紹介をするほか、毎年夏休み前に、幅広い本に親しむため中学生に是非読んでほしい本を掲載した「中野中の100冊」を作成しています。「中野中の100冊」は、当初は保護者や生徒、教員からお薦め本を募って作成したもので、現在も毎年10～15冊程度の入替えを継続して行い、図書館内にコーナーを作って積極的に生徒に紹介しています。

図書委員会の活動としては、年7回ほど図書館新聞を発行し、教員のお薦め本の紹介や図書館の利用方法など掲載しています。

また、読書週間には、朝読書や日常の読書の中で感動した本や他の生徒に薦めたい本について、図書委員が「私が出会った一冊の本」として朝礼で紹介したり、全校生徒が短冊に書き、廊下に掲示したりといった取組も行っています。さらに、給食の時間には校内放送で「先生からのお薦め本クイズ」として、いつ読んだか、心に残ったところ、あらすじなどから、どの先生のお薦め本かをクイズ形式で出題し、生徒への本への興味を高めています。

こうした取組により、「学校図書館をよく利用する・たまに利用する」という生徒の割合は8割を越え、ほとんどの生徒が本を読むようになってきました。



私が出会った一冊の本

【高校生等の取組事例】

推薦図書 120 選 ～東京都立西高等学校の読書活動の推進～

都立西高等学校では、国語科を中心に、中学生まではあまり触れることのなかったと思われる近代文学・思想の古典と言えるものを選んだ、「推薦図書 120 選」コーナーを学校図書館に常設し、特に入学時の図書館オリエンテーションで紹介するとともに、「推薦図書 120 選」をもとに、年間 25 冊の読書を課した読書指導を行っています。あせて年 3 回の読書記録として、読んだ本の概要や感想を記録する取組を行っています。

二年・三年次では「総合的な学習の時間」を活用し、進路実現に向けた読書活動も行っています。

図書委員会では、学校司書の指導の下、毎回テーマを設定して、年 3 回広報誌「書窓」を発行しており、その中で紹介した本についても図書館内にコーナーを設置しています。

その他、月 2 回の「新着図書案内」や、修学旅行、ディベート、本校卒業生の著作物などのコーナーを作り、広く生徒に向けて様々な本の紹介に努めています。

また、金曜日の始業前に公民科の教員が法律や経済の入門書を生徒とともに読む読書会を開催しているほか、夏期休業中には

社会科学に関する本を読む講座を開講しています。

読書記録からも、生徒の読書量・幅ともに広がっていることがうかがえます。



推薦図書 120 選

読書習慣を日常に ～東京都立武蔵村山高等学校の昼読書～

全ての生徒が読書を行うことを目標に、武蔵村山高等学校では平成 23 年度から昼読書を実施しています。毎日平日の終業を 10 分遅らせ、5 時間目始前の 10 分間、5 時間目担当の教員が監督、出欠確認を行い、教員も生徒と一緒に本を読む時間としています。学校全体で読書活動に取り組むことで生徒や教員が本の話でコミュニケーションを取る様子も見られます。



昼読書

また、昼読書を行うことで授業前の雰囲気も落ち着き、5 時間目の授業に対しての集中力が増したように感じられます。

身近に本がある環境を作るために各クラスに 40 冊程度の学級文庫を設置しており、生徒が本に親しむきっかけともなっています。さらに、生徒が本に関心や興味を持つよう、国際ブックフェアへの見学ツアーなども有志で行いました。

図書館では新入生のオリエンテーションで、読書の原点にかえて楽しかった読書体験を思い出し、読書の喜びを再び感じてもらいたいと思い、読み聞かせを実施しています。

館内にはテーマ別に様々なコーナーを作っており、ホームページで掲載されている「校長先生の私の昼読書」のコーナーや、夏休み前には様々なジャンルからバランスを考えて選書を行った教員による推薦図書リストを作成し、コーナーを作って紹介しています。さらに、生徒や教員が記名でも匿名でも本を紹介することができる「自由参加のお薦め本紹介コーナー」を設け、感動したり共感したりしたお薦め文を専用の用紙に書くことで誰でもその場でコーナーに参加できるようにしています。これらのコーナーは多くの本の中で何を讀んだらよいか分からない生徒にとって、友達、又は、あの先生の薦めているものなら読んでみようか、といった読書への導きのような役割を果たしています。

継続して読書の時間を作ることで生徒にとって本を読むことが日常のものとなり、全



自由参加のお薦め本紹介コーナー



ビブリオバトル

校生徒が本を読むようになりました。

喜びを持って自ら学ぶ力を育てる場 ～聖心女子学院 読書活動の取組～

聖心女子学院では初中高一貫教育の特長を生かして、受け身でない主体的な学びの力を育てることを大切にしています。その一環として図書資料を使った調べ学習を重視し、図書館を「豊かな心と魂を育てる」拠点と位置付けてきました。

生徒は図書館を利用しながら主体的な学習習慣を身に付けていきますので、図書館が「喜びを持って自ら学ぶ力を育てる場」となることを目指していきたくと考えています。

生徒の活動としては、図書委員会で隔月紙「Book Times」の発行、特集コーナーの設置や本を紹介するポスターの掲示のほか、ブックレビューコンテスト、ブックマラソン、クイズラリー、作家クロスワード、見学ツアー、古本市など様々な図書館イベントも毎年開催し、生徒の啓蒙活動に努めています。

図書館では、毎月「図書館だより」を発行、また学習活動を支援するために、各教科の年間指導計画や学校行事に順って関連資料の収集や新聞スクラップも随時行っています。

図書館から外部コンクール等への参加も積極的に呼び掛け、各種表彰をいただきました。

保護者の図書館活動への参加も大変協力的で、蔵書清掃・閲覧室整備のボランティアは毎年希望者多数のため100名を選出、今年度も多数のお申出を頂いています。

今後も読書活動を核に、学習活動や他学年交流を通して、生徒の堅実な思考力と広い視野を涵養する場であり続けたいと考えています。



【特別な支援を必要とする児童・生徒の取組事例】

どの子供にも読書の喜びを感じてほしい！

～東京都立鹿本学園～

どの児童・生徒にも読書の喜びを感じてほしい。その願いから生まれたのが、「オープンライブラリー」です。幅の広い廊下を活用し、25メートルにわたって本を展示するスペースを設けました。この廊下は、毎週授業がある自立活動や体育の授業の際に、全ての児童・生徒が必ず通ります。また、玄関が近いので保護者も気軽に立ち寄ることができます。さらに、次のような工夫もしています。

- ① 車椅子に乗っていても本が取りやすくなるように、高さの低い書棚に本を置く。
- ② 子供が本の内容を想像して興味をもつことができるように、表紙を見せて展示する。
- ③ 子供たちの多様な興味に応えられるように、約 200 冊の本を展示する。
- ④ 子供の知的好奇心を刺激するため、月に 1 回、その季節にふさわしい内容の本や学習内容に関連した本に入れ替える。
- ⑤ 隣接する図書室に入りやすいように、ドアを常時開放する。
- ⑥ 子供が自分で貸出手続をできるように、扱い方が簡便なバーコードシステムを工夫する。

この取組によって、昨年度に比べて倍以上の貸出しが行われました。また、休み時間でも、様々な学年の子供が図書室で本を読む姿が見られるようになりました。

この他、民間の教育財団との共同研究によって開発したマルチメディアDAISY図書による「聞く読書」を進めたり、本の内容に関連したパペットを展示して本と一緒に貸し出したりすることで、多様な形で読書の喜びを感じられるように工夫しています。



オープンライブラリー

また、キャリア教育の一環として、生徒による学校図書館運営を行っています。毎週水曜日の作業学習の時間等では、肢体不自由教育部門の中学部・高等部の担当の生徒が「どうすれば貸出の数が增えるのか」をテーマに話し合い、利用者のニーズに応えるため図書室の案内図の充実など様々な取組を展開しています。

その結果、社会人、職業人としての基礎・基本的な姿勢が自然と身に付き「生きる力」の育成につながっています。



バーコード貼りの様子

【発達障害の児童・生徒の読書活動の支援としての指導事例】

学習に必要な基礎的な能力のうち、一つないし複数の特定の能力についてなかなか習得できなかったり、うまく発揮できなかったりする児童・生徒がいます。このような障害の特性を理解して読書活動を行うことが必要です。

長文の意味理解が苦手な児童の指導

アセスメントの実施

「文字の読み書きチェックリスト」 (通級指導学級版・通常の学級版)等の実施

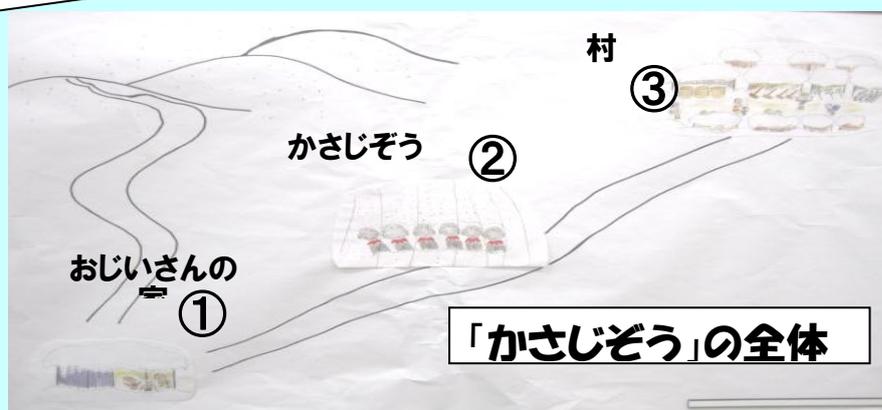
- 1音読では、単語の読み間違いが多い。
- 2漢字や読み慣れない言葉を読むことが難しい。
- 3語句の意味を理解したり文章の内容を理解したりすることが難しい。
- 4長文を読みながら内容を理解することが難しい。

指導目標

★文章全体のストーリーや要旨を理解できるようになろう！

物語のあらすじを「見える化」

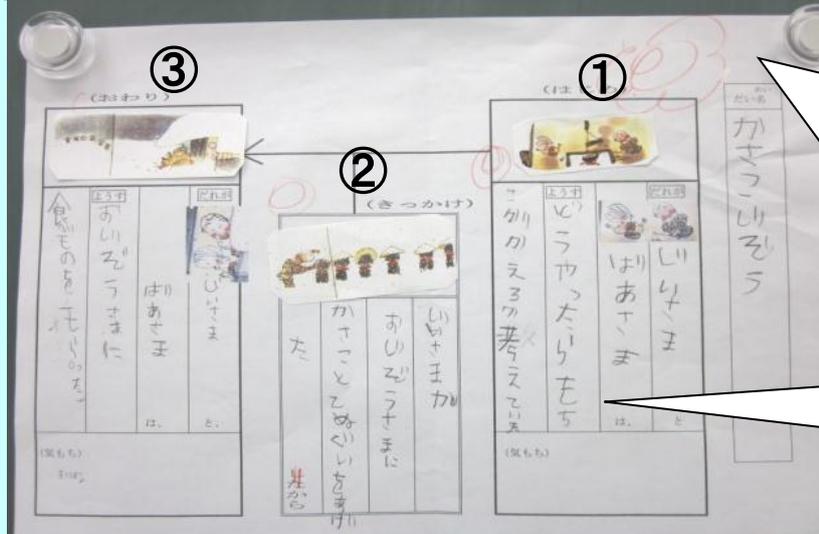
★指導の手立て＝物語全体（かさ地蔵）の視覚化



◆物語全体のあらすじの図示

- ・物語に登場する主要人物や、地理関係等を1枚の絵に「見える化」して、物語の全体像をおおまかに把握させます。

教科書の挿絵を活用したワークシートの工夫



①文章の構成が分かるように、挿絵をカードにして並べ、始め・中・終わりが分かるようにしました。(挿絵は教科書に掲載されているものです。)

②挿絵の様子を短文で書くことで、文章全体の内容を捉えられるようにしまし



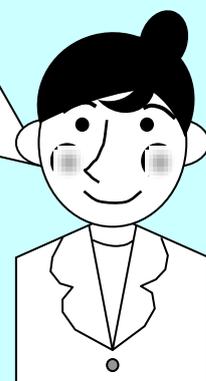
ストーリーに沿って挿絵を並べる。

◆挿絵を順番に並べて、絵に描かれている様子を見てお話を作る学習をしました。



指導の成果

- ★物語や説明文の内容の「見える化」は、意味理解を助けることに大変に役立ちました。
- ★在籍学級では、児童が内容を理解している読みやすい箇所を学級担任が指名する配慮をすることで、学習に意欲的に参加するようになりました。



◆内容の「見える化」は、障害のない児童の長文読解の指導の際にも、有効な手立てだと思われれます。

【学校支援ボランティアの資質向上のための自治体での取組例】

学校での読書活動の推進に当たり、ボランティアなどの地域の力が欠かせないものとなってきています。学校支援ボランティアでも、学校図書館において読み聞かせや図書館整備などが行われています。

そうした中で、ボランティアとして活動されている方々の資質向上や、これからボランティアを始めたいと考える方々のための講習会などへの取組が行われてきています。このようなボランティアのスキルアップのための取組例など事例を収集し、東京都子供読書活動推進計画ホームページの中で紹介していきます。

＜小平市 自治体・学校での取組＞

小平市では、各学校を会場として、学校支援ボランティア入門講座や、既に学校支援ボランティアとして活動している方のスキルアップのための各種講座を開催しています。

学校図書館関係として、各学校では次のような講座が開催されています。(例)「学校図書館装飾講座」(元書店経営者)、「ブックトークの世界」(図書館職員)、「図書修理講習会」(図書館職員)、「切り紙で作る栞」(切り紙愛好家)、「楽しい絵本の読み聞かせ講習」(小平市子ども文庫連絡協議会)、「読み聞かせ講座」(元アナウンサー)など。

また、年 2 回、ボランティアとして活動している方、及びコーディネーターのために、学校図書館ボランティア交流会を開催しています。交流会では、図書館司書による読み聞かせのこつや児童文学専門家による講演、ボランティア同士の情報交換会が行われています。

＜大田区 図書館での取組＞

大田区立図書館では平成 15 年度より、「読み聞かせボランティア講座」を年に数講座実施しています。

平成 25 年度は初の試みとして、学校図書館支援ボランティア向けに 1 講座を設け、学校図書館の役割とボランティアの役割、本の紹介の仕方(講師によるブックトークやアニメーションを体験、本を選んで紹介し合うなど)を行いました。

平成 26 年度は「小学校向けおはなし会」として 1 講座を設け、小学校での読み聞かせの特色や注意点、学年別の絵本の紹介、朝の 10 分間読書のプログラムの作り方などを取り入れました。

＜世田谷区 図書館での取組＞

世田谷区立図書館では学校おはなし会ボランティア養成講座(初級)及び、おはなし会ボランティア養成講座(ステップアップ)を行っており、学校等で読み聞かせを行う方を想定しています。

初級は、区内の学校で読み聞かせ活動を行っている方、行おうと思っている方向けに、おはなし会や読み聞かせの講義と実習を1日2時間程度6日間実施しています。

ステップアップは、おはなし会ボランティアとして既に活動している方向けとして、おはなし会をさらに充実させるための技法や工夫を学びます。各論として絵本講座・科学おはなし講座・ストーリーテリング（おはなし）講座など、各講座を二三日間実施しています。

【学校図書館リニューアル事例】

学校支援ボランティアによる図書館リニューアル事例 ～江戸川区立南葛西第二中学校の取組～

南葛西第二中学校では月に一度、図書ボランティアが集まり、図書室のリフォーム計画に基づいて、本棚の移動や壁面のレイアウト、書庫の整理及び不要なものの片付けなど学校図書館の環境作りを行っています。

今は明るい雰囲気です毎日開館されている学校図書館ですが、4年前までは利用が限られた図書館でした。

そのような状況の中、学校支援ボランティアとして保護者の方々が力を合わせ、2年間にわたり本と本棚の清掃を実施、ばらばらだった本の並び方も日本十進分類法に統一、分類サインも作成しました。

そうした努力により、図書館が利用できるようになり、現在は毎日昼休みには、担当教諭と図書委員の生徒たちによって図書館が開館され、貸出しが行われています。

平成25年度には江戸川区立図書館の学校図書館支援チームとも連携し、生徒が本を探しやすく、読みやすい環境を作るため、本棚を移動させて大規模にレイアウト変更を行いました。リニューアル後、見通しが良く、死角が少なくなった図書館では落ち着いて読書する生徒が増え、教員が授業で利用する本も探しやすくなりました。

生徒からは「図書館の装飾に季節感があり、いつもきれいで気持ちがいい。」「本がわかりやすく分類されているので探しやすい。」と好評で、図書館を利用する生徒が増えました。

今後の課題はボランティアの裾野を広げ、ボランティアの後継者を育てていくことです。学校開放の際などに、実際にどのような活動を行っているか図書館を見てもらい、ボランティアを増やす試みを行っています。



【東京都子供読書活動推進計画関連ホームページ案内】

**東京都子供読書活動推進計画
～未来を支える読書～**

<http://kodomo-dokusho.metro.tokyo.jp/>

都立図書館

<http://www.library.metro.tokyo.jp/>

都立図書館児童青少年資料サービスのご案内

<http://www.library.metro.tokyo.jp/tabid/3855/Default.aspx>

東京都教育委員会

<http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/>